

中海・宍道湖・大山圏域の人口と産業

現状についてお知らせします

(1) 中海・宍道湖・大山圏域の人口

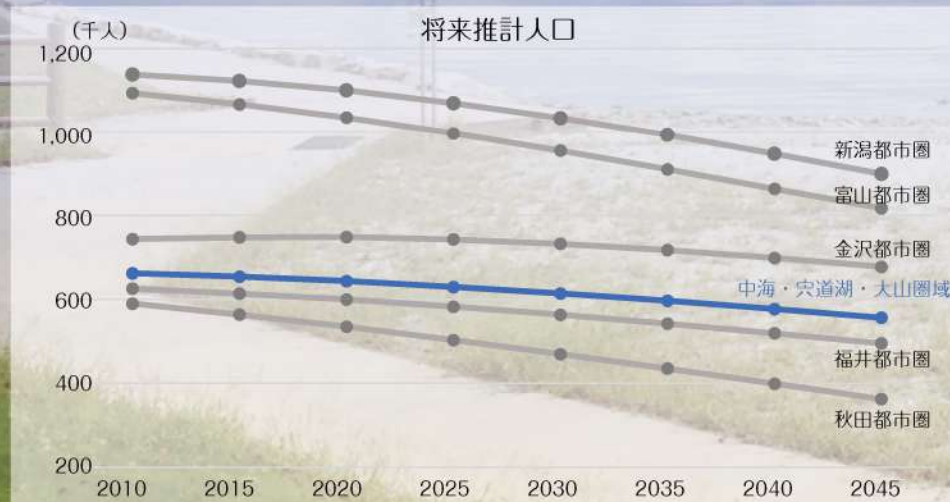
名称	R2 (人)	H27 (人)	増減数	増減率 (%)
松江市	203,616	206,230	-2,614	-1.27
出雲市	172,775	171,938	837	0.49
米子市	147,317	149,313	-1,996	-1.34
安来市	37,062	39,528	-2,466	-6.24
境港市	32,740	34,174	-1,434	-4.20
鳥取県西部7町村	49,665	53,024	-3,359	-6.33
圏域合計	643,175	654,207	-11,032	-1.69
鳥根県	671,126	694,352	-23,226	-3.34
鳥取県	553,407	573,441	-20,034	-3.49
秋田都市圏	538,608	563,621	-25,013	-4.44
新潟都市圏	1,083,936	1,122,455	-38,519	-3.43
富山都市圏	1,034,814	1,066,328	-31,514	-2.96
金沢都市圏	747,576	747,780	-204	-0.03
福井都市圏	600,904	613,704	-12,800	-2.09

【出典】 総務省「国勢調査」

日本海側の都市圏等と比較しても、圏域として人口流出を防ぐ、一定の人口ダムの機能を発揮している状況と言えます。
 圏域内に目を向けると、人口減少率の高い地域は、人口が少ない地域で高くなっています。人口が集積しているエリアは人口流出を防ぐ人口ダムの機能を発揮しています。しかしながら、このまま周辺地域の人口が減少すれば、人口減少が急激に加速すると危惧されます。



米子



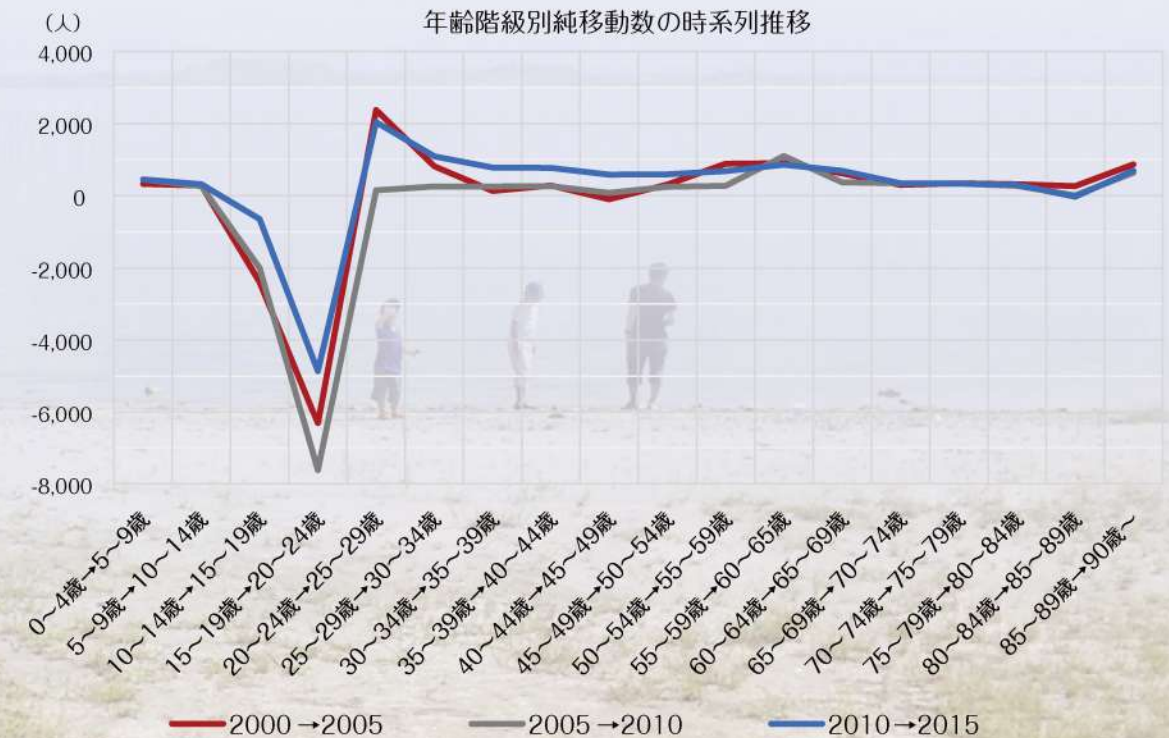
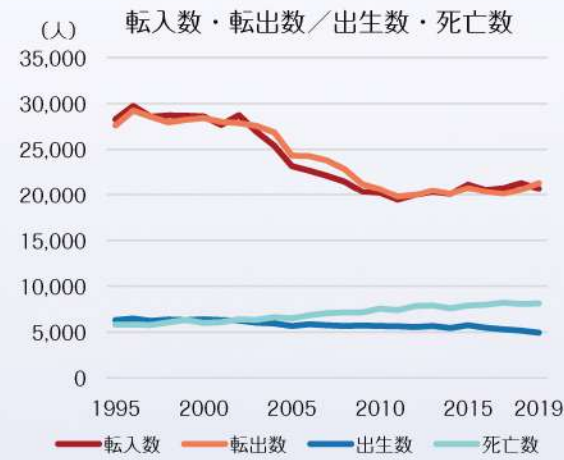
【出典】 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

日本海側の主要都市圏と比べても、比較的緩やかに人口減少が進むと推計されています。しかしながら、今後も少子高齢化が進み、人口構造のバランスが崩れ、労働人口が減少して労働力不足が深刻になるだけでなく、年金や医療費などの社会保障費も増大することが危惧されています。

(2) 人口増減



圏域イメージキャラクター「ウンバくん」



人口増減数は、自然増減数については出生数の減少、死亡数の増加により年々減少幅が大きくなっている状況です。一方、社会増減数について、年度によってばらつきはあるものの、一定数の転入者数を確保し微増、微減を繰り返しています。また、年齢階級別純移動数をみると、特に、進学や就職を機に県外に転出しており、この世代の減少数が、圏域全体の人口減少に大きな影響を与えていると考えられます。

松江



境港

